

(2) 新しい技術

新しい技術を使って、品質が良く、たくさん収穫できる品種をついたり、野菜など1年中いつでも収められるようつくり方をくふうしたりして、消費者によるこぼれる農産物をつくる努力が行われています。

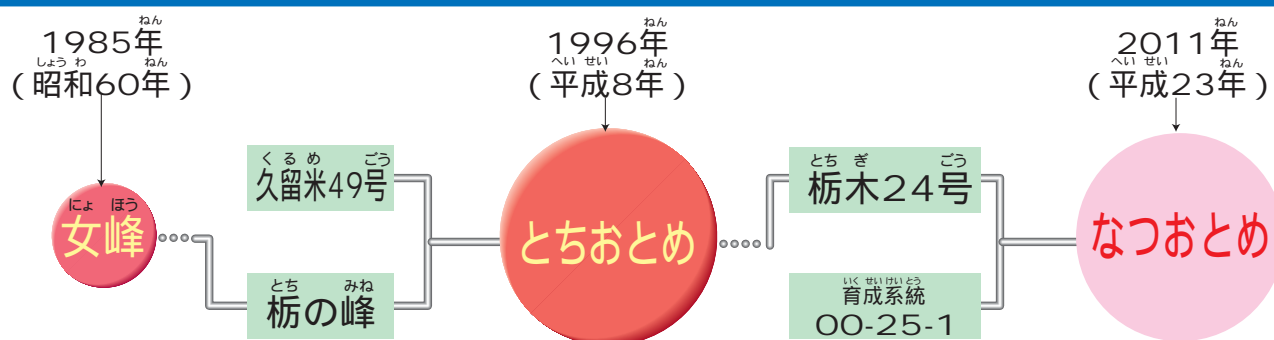
作物の品種の改良～オリジナル品種

栃木県は、いちご「女峰」をつくりだしました。色はつやのあるあざやかな赤、形はきれいな円すい形、味は上品なあまみのあるおいしいいちごです。しかし、よりおいしいいちごをつくりたいという願いはつきません。さらに品種を改良してつづが大きくてあまみのある「とちおとめ」をつくりだし、今では県内のほぼ100%で生産されています。

「女峰」も「とちおとめ」も、品種の改良をくりかえしてできたものです。品種の改良とは、味や形、色のよいものをかけあわせ、よりよい品種をつくりだすことです。

イチゴは主に冬に収穫されてきましたが、最近では夏でも収穫できる「なつおとめ」が開発されました。品種改良の努力で1年を通じてイチゴが食べられるようになりました。

あたらしい品種ができるまで



いちごの改良のようす

おいしいいちごをつくるために長い間がんばってきたのね。



いくせいけいとう 育成系統とは、種苗法による品種登録前の品種候補です。